

研究内容公開用原稿

2010/09/28 大学院医学系研究科・精神医学分野 小笠原

研究課題名

「季節性感情障害と抑うつ症状・睡眠・人格等の関連に関する研究」

研究の意義

気分障害（うつ病・躁うつ病）には、決まった季節に悪化する性質のものがあり、「季節性感情障害」(SAD)と呼ばれます。SADは患者さんの生活の質を悪くし、医療機関への不必要な受診を増やしてしまうなど、社会へ大きな影響を与えています。日本においてもかなりの数の患者さんが存在すると推定されており、その解明を進める必要があります。

目的

日本のSADの患者さんの割合や、どんな症状や特徴があるのかを調べ、早期発見を進めることや、診断・治療の質を向上させることを目指しています。

方法

科学技術庁・科学技術振興調整費「日常生活における快適な睡眠の確保に関する総合研究」（1996年～98年度：代表 名古屋大学(当時)・太田龍朗）によって行われた、日本の一般住民約45000名に関するアンケート調査結果を用いた研究です。ここには、

- ①一般的な質問事項
- ②人格傾向
- ③睡眠の状況
- ④抑うつ症状
- ⑤季節と、気分・体調

などの情報が含まれています。これらの情報はすでに個人情報とは完全に切り離されており、個人を特定することはできなくなっています（従って、研究の対象となった方から御希望があっても、当該データの特定ならびに削除はできません）。

上記の情報を分析し、次のような事柄の解明を目指す予定です。

- ◇日本におけるSADの患者さんの割合
- ◇人格傾向とSADの関連
- ◇睡眠とSADの関連
- ◇SADを見つけ出すアンケート用紙の検討
- ◇その他

研究機関名

名古屋大学大学院医学系研究科 細胞情報医学専攻

脳神経病態制御学講座 精神医学分野

連絡先

所在地 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話 052-744-2431(内線 2282)

Eメールアドレス: ogakazu@work.nifty.jp (大学院生・小笠原一能)